

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学内外他研究科、研究所との連携	→学内外他研究科とのゼミ交流活動の実施、共同ワークショップ、共同シンポジウム企画の実施/参加回数	A	B			
2. 海外の研究機関との連携	→若手研究者海外派遣制度などを利用した大学院生の海外研究拠点への派遣回数・人数	A	B			
3. 大学院生の評価、外部委員の評価を取りまとめる大学院教育アセスメント部会などの設置・審議	→大学院教育アセスメント部会の設置の有無および審議回数	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 大学院前期課程指導教員の任用基準見直しを受けて、2009年度に大学院前期課程指導教員数が大幅に増加し、2011年4月には新たに5名が任用された。そのことを通じて、セオリー/モデル、フィールド/メソッド、リサーチ/データ/プレゼンテーションという幅広い観点から教育・研究活動を推進し、ソシオリテラシーの実現を図っている。
☆ 小項目 4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ → ● 検証している ○ 検証していない (説明) 大学院連絡会、大学院研究科委員会において、教育・研究組織について検証を行っている。
その他	目標「1. 学内外他研究科、研究所との連携」、「2. 海外の研究機関との連携」の進捗評価については、昨年度は1年間の進捗評価を行ったので「A」と評価したが、本年度は、到達年度である2013年度に対してどれだけ進んだかという進捗評価を行ったので「B」と評価した。

《評価指標データ》

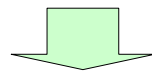
- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

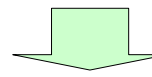
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○学内外の諸機関との連携が積極的に進められています。

【学内委員】

○教育研究組織の、理念・目的との適合性についての検証が期待されます。

○教育研究組織が研究科の理念・目標に照らして幅広い観点から構成され、また順次充実してきている点は評価できます。またその適切性を定常的に検証している点も評価できます。

○2013年度に向けた目標の進捗に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・社会学研究科は、学内外他研究科と積極的に交流を行っています。また、前期課程の指導教員数の増加により、研究教育の幅も広めており、これらの点は十分に評価できます。また教育研究組織の適切性についても定期的に検証しており、この点も評価できます。今後も、理念・目的に合うように適宜再検証・改善が行われることが期待されます。

【大学基準協会・評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

なし

☆